

熊谷桜のつながり

1年生227名、2年生230名の代表者に、先ほど修了証を手渡しました。修了証の「しゅう」という字は「終わる」という字ではありません。修学旅行の「修」です。この字は「おさめる」と読み、「身に付ける」という意味があります。ですから修了式とは、この1年間を通じて学習面でも生活面でも様々なことを身に付け、「私たちの成長した姿を見てください」という式なのだと考えています。皆さんはこの1年間で成長することができたでしょうか。各学年等の主任の先生に、皆さんが集団として成長した点を聞いてみました。7～12組主任の鳥海先生は「『思いやり』について深く考えることができたこと」、1年生の時田先生は「『みんなが好きと言える学年』により近づくことができたこと」、2年生の霜田先生は「多くの生徒が思慮分別のあるふるまいを身につけることができたこと」とお話になりました。学校全体でも「文武両道」の精神が発揮され、さまざまな面で大きな成果をあげることができました。すばらしい成長を感じることができました。

さて、先日の卒業式、御来賓のお話（教育委員会告示）では、熊谷市を代表する偉人「熊谷次郎直実公」を取り上げていました。2年生の国語で学習する古典「平家物語」にも登場します。源氏の大将・源頼朝から「日本一の剛の者」と称されました。平家との戦い（一ノ谷の合戦）では、敵陣に最初に切り込む「さきがけ」を争ったと言われています。

この故事から、春先最初に咲く桜には「熊谷桜」と名付けられました。熊谷桜は本校にもあります。理科室・通級の前を通学路としている人は毎日見ているはずですが、卒業式前日に一輪花開きました。今では、満開に近づいています。10年ほど前に本校に熊谷桜を植樹して下さったのが熊谷市内の市民団体「桜ファンクラブ」でした。今月上旬の新聞で、その「桜ファンクラブ」を中心とした皆様の記事が目にとまりました。記事を読むと、熊谷桜を宮城県の気仙沼市に植樹して10年が経ち、合計1000本に達したということがわかりました。気仙沼は熊谷と縁があります。熊谷次郎直実公の孫が800年前に移り住んだことで、今では「熊谷」姓が全体の5%も占めるほどだそうです。東日本大震災で甚大な被害を受けた気仙沼を励ますために始めた活動が10年も続いたことに驚きました。そして、人と人のつながりの深さを感じました。熊谷桜が結ぶ熊谷と気仙沼の方々のつながりの深さは、互いが支え合い、感謝し合う関係性から生まれたのだと思います。

今年度の学級は本日で解散となりますが、学年や部活動、委員会の仲間とのつながり、絆は来年度も続きます。もっと言えば、卒業した後も続くのです。これまで同様に、仲間に対する思いやりをもち、分別のある言動をとることが大切です。相手のよさや頑張りを認め、苦しいときには支え合い「ありがとう」という感謝の気持ちを表せるといいですね。

来年度、生徒の皆さんのつながりや絆がさらに深まり強くなることを期待し、令和6年度修了式の式辞とします。